

# NEWS LETTER

2017年  
2月号

## 特集：千年カルテシンポジウム in 東京

### ～Bridge to the future グローバル時代の医療情報利活用実現に向けて～

従来より医療情報利活用可能性を模索してきた医療統計情報プラットフォーム研究会（CISA）との合同で、2017年2月3日東京 KITTE にてシンポジウムが開催されました。およそ210名の参加者のもと、医療情報利活用について具体的事例から政府の最新動向、海外事例に至るまで様々な講演が行われました。

### 『千年プロジェクトの概要』



吉原博幸氏（京都大学・宮崎大学名誉教授）

2015年に始まった千年カルテプロジェクトの概要と今後の計画に関する説明が行われた。初年度に、基盤となる EHR データセンタの開発と立ち上げを行い、基幹病院を中心に11施設を接続した。2016年度は21施設を接続、2017年度は40施設の接続を予定している。既にデータセンタへのアクセス実験も完了しており、2018年度までには約200病院の接続を目指している。医師・患者の立場で医療データを2次利用することも視野に入れており、2019年度以降の実装に向けた予備的研究も行っている。

### 『政府が考える次世代医療デジタル基盤の構築』

藤本康二氏（内閣官房健康・医療戦略室 次長）

健康・医療戦略等に基づき、医療・介護・健康分野におけるアウトカム情報を含むデジタルデータの収集と利活用を円滑に行う全国規模の医療 ICT 基盤の構築並びに臨床における ICT の活用により高度で効率的な次世代医療の実現と国際標準の獲得を目指し、次世代医療 ICT 基盤協議会にて協議を進めている。次世代医療 ICT 基盤協議会では、デジタルデータの収集と利活用を行う医療情報匿名加工・提供機関（仮称）について、利活用する情報の範囲、セキュリティ対策、匿名加工技術などの要件を取り纏め、本通常国会において「医療分野の研究開発に資する匿名加工医療情報に関する法律（案）」の成立を目指している。この法案の成立によって、「医薬品市販後調査の高度化・効率化」「AIによる診療支援」「臨床研究の高度化」「革新的な疫学研究」等に寄与する新たな仕組みが実現するものと考えている。

（※当日の資料は、講演者都合により Web での掲載を控えさせていただいております。）



## 『The Future of Healthcare Information Technology』



Dr. John Halamka (ハーバード大学)

**2** 017年1月にトランプ大統領が就任したことを受けて講演が行われた。

まず、オバマケアに代表される公的な保健医療政策はトランプ政権では縮小され、民間に委託され市場競争に委ねられるだろう。オバマ政権の間に80%の医療機関で電子カルテ・EHRが利用できるようにはなったが、1人の患者が入院するまでに453回もクリックしなければならないなど現場への負担も増えている。HL7 CCD Aなどを利用して診療データを連携する医療機関へ送信する仕組みはできたが、必要な診療データを取り出すことがまだできていない。ビッグデータ解析やモバイル端末の利用、クラウドの利用もまだ十分にはできていない。このような状況を改善するために、Halamka氏と彼の家族の経験、Harvardの事例をひもときながら以下のような研究開発が紹介された。

- ◆ スマートフォン・モバイル端末を利用して、EHRに蓄積された個人の健康情報にアクセスできるようなアプリを開発することで患者参加型の医療を実現する。
- ◆ AmazonやGoogleといったクラウドベンダーと協力してヘルスケアデータを大規模に集積するリポジトリの開発を行っている。セキュリティや相互の責任についての契約が重要である。
- ◆ セキュリティに関しては外部からの攻撃への対応だけではなく、内部からの流出に備えた教育などの対策を行っている。リスクをゼロにすることはできないということを受け入れる必要がある。
- ◆ 医師や看護師など臨床家の負担を減らすように改良を行っている。

## 『openEHR - a platform for health in the digital age』

Mr. Thomas Beale (OpenEHR Foundation)

**I** SO 13606 およびその基盤となる openEHR 仕様についての講演であった。診療や臨床研究、公衆衛生をカバーする共通の電子的プラットフォームについての研究が1990年代より行われてきた。プラットフォームとしてのEHRに対する多様な要求に答えていくには多くの標準が必要となる。openEHRはヨーロッパおよびオーストラリアでの研究成果を元にEHRについての仕様について開発する団体であり、ISO13606の元となった。openEHRは国際的なNPOであり、EHRの標準的仕様について公開の議論の元で開発を進めている。仕様策定委員会には日本人も参加している。この仕様の元でソフトウェアの開発が進められており、一部はオープンソースソフトウェアとして公開もされている。さらには、臨床家のグループが詳細な情報モデルの開発に取り組んできた。現在はISO13606の改訂作業も行っているが、新しい取り組みとしてTask planningについてのモデルを開発している。これは臨床試験などにも応用できるもので、今年中に仕様策定を終える予定である。日本でもNPO日本openEHR協会が設立され、日本でのEHR構築に向けて活動していると伺っている。ぜひopenEHRをベースとしたプラットフォームをヘルスケアに活用してもらいたい。



シンポジウムの資料を公開しております。  
 ご覧になりたい方はこちら ⇒ <https://goo.gl/YPynRW>



スマートフォンおよびQRコードリーダー対応の携帯電話をお使いの方は、左記のQRコードからもアクセス可能です。